阪神・淡路大震災から…

■死因の9割は圧死

6000人を超える犠牲者の死因の約9割は、家屋の倒壊や家具類の転倒による圧迫・窒息死で、約1割は火災による焼死です。

倒壊・半壊した家屋の70％は、昭和56年5月以前の建築基準のもので、昭和57年以降に建築された建物の被害は、約30％でした。

《対策》

大切な命を守るためには、家具類の転倒だけでなく家屋の倒壊も防ぐことが重要です。

家具を金具などで固定したり、家具の配置を考えたりして、安全なスペースを確保しましょう。また、割れたガラスによってけがをすることがありますので、ガラス飛散防止用フィルムを貼っておきましょう。

田原市では、昭和56年5月以前に建築した木造住宅の耐震診断が無料で受けられます。また、耐震診断をした結果、総合判定が1・0未満となった住宅を対象に、耐震改修計画策定費や耐震改修工事費の補助を行っています。詳しくは建築課にお問い合わせください。

▼建築課☎23局3526

■98％は自力か家族や隣人の救助

地震で生き埋めになったり、建物や家具に閉じ込められたりした方のうち、自力で脱出したのは34・9％、家族に救助されたのは31・9％、友人・隣人に救助されたのは28・1％、通行人に救助されたのは2・6％で、救助隊に助けられたのは、わずか1・7％でした。

《対策》

救助者の数や交通の障害などにより、消防や警察などの救助機関の救援がすべてに対応するのは難しいと考えられます。災害時は、隣近所の方などで助け合うことが重要です。日ごろからの近所付き合いや、自主防災会での活動を大切にしましょう。

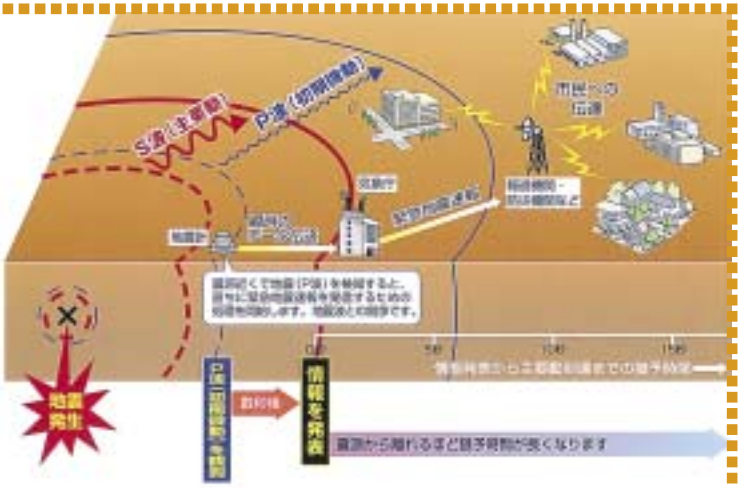
■ライフライン復旧は1週間～2か月

電気はほぼ1週間、電話は2週間で復旧しましたが、上水道とガスは復旧に約2か月かかりました。

《対策》

地震が起きた直後は、救援活動が受けられるまで、およそ3日間かかると想定されています。食料品は、できれば7日分（最低でも3日分）程度、飲料水は一人につき1日3ℓ（最低3日分）を各家庭で蓄えておきましょう。

来る前に知る『緊急地震速報』～10月1日スタート～



■緊急地震速報とは？

日本の気象庁が、10月1日から国内一般向けに速報する予定の地震情報です。このシステムは、地震の発生直後に震源近くで地震をキャッチし、その地震の位置や規模、想定される揺れの強さを自動計算します。そして、地震による強い揺れが始まる数秒～数十秒前に、地震情報を素早くおしらせするというものです。

■仕組み

地震の揺れは、震源から波紋のように波（地震波）として伝わっていきます。この地震波は、主にP波（初期微動）とS波（主要動）の2種類あります。最初にP波が伝わり、次に強い揺れのS波が伝わります。この伝搬速度差を利用して、震源に近い地点におけるP波の観測に基づいて、後から来るS波を予測し、震源からある程度以上離れた地点に対して、その到達前に地震速報を発表することができるのです。

〈地震波が伝わる速さ〉

P波…秒速約7㎞

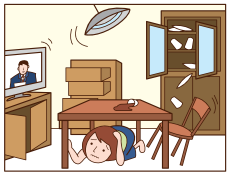
S波…秒速約4㎞

※震源に近い場所では、緊急地震速報が間に合わないことがあります。

■どうやって知るの？

震度5弱以上の揺れが推定される場合に、テレビやラジオを通じて情報が提供される予定です。

「緊急地震速報」
強い揺れが来ます！
（揺れの予告）



危険回避！

■適切な行動を

緊急地震速報を見たり聞いたりしたときは、あわてずに、まず身の安全を確保しましょう。強い揺れが来るまでの時間は短いので、欲張ってはいけません。料理をしているときや寝ているときなどを思い浮かべ、行動パターンを事前に確認しておくことが大切です。